

[そのとき、] イエスは通りすがりに、生まれつき目の見えない人を見かけられた。

イエスは地面に唾をし、唾で土をこねてその人の目にお塗りになった。

そして、「シロアム——『遣わされた者』という意味——の池に行って洗いなさい」と言われた。

そこで、彼は行って洗い、目が見えるようになって、帰って来た。

近所の人々や、彼が物乞いであったのを前に見ていた人々が、

「これは、座って物乞いをしていた人ではないか」と言った。

「その人だ」と言う者もいれば、「いや違う。似ているだけだ」と言う者もいた。

本人は、「わたしがそうなのです」と言った。

人々は、前に盲人であった人をファリサイ派の人々のところへ連れて行った。

イエスが土をこねてその目を開けられたのは、安息日のことであった。

そこで、ファリサイ派の人々も、どうして見えるようになったのかと尋ねた。

彼は言った。「あの方が、わたしの目にこねた土を塗りました。

そして、わたしが洗うと、見えるようになったのです。」

ファリサイ派の人々の中には、「その人は、安息日を守らないから、

神のもとから来た者ではない」と言う者もいれば、

「どうして罪のある人間が、こんなしるしを行うことができるだろうか」と言う者もいた。

こうして、彼らの間で意見が分かれた。そこで、人々は盲人であった人に再び言った。

「目を開けてくれたということだが、いったい、お前はあの人をどう思うのか。」

彼は「あの方は預言者です」と言った。

彼らは、「お前は全く罪の中に生まれたのに、我々に教えようというのか」

と言い返し、彼を外に追い出した。

イエスは彼が外に追い出されたことをお聞きになった。

そして彼に出会うと、「あなたは人の子を信じるか」と言われた。

彼は答えて言った。「主よ、その方はどんな人ですか。その方を信じたいのですが。」

イエスは言われた。「あなたは、もうその人を見ている。

あなたと話しているのが、その人だ。」

彼は、「主よ、信じます」と言って、ひざまずいた。